



特定非営利活動法人「人間の安全保障」フォーラム

Human Security Forum (HSF)

2020 年度活動報告書

2021 年 5 月

目次

I はじめに	2
II 2020年度活動報告	3
1. 人間の安全保障のための学習支援プロジェクト	3
2. 各種連携、教育プロジェクト	5
3. ANRIP 会議の開催とまなび旅	6
4. 「日本の人間の安全保障指標」プロジェクト	7

I はじめに

「人間の安全保障」フォーラム（HSF）は、すべての人の命、生活、尊厳をまもる「人間の安全保障」の理念は実践されてこそ意義があるとの信念を共有する研究者、学生が中心になって2011年東日本大震災の年に設立されました。

2020年度は以下の活動を実施しました。

1. 人間の安全保障のための学習支援プロジェクト
2. 各種連携、教育プロジェクト
3. ANRIP会議の開催とまなび旅
4. 「日本の人間の安全保障指標」プロジェクト

II 2020 年度活動報告

1. 人間の安全保障のための学習支援プロジェクト（協賛：立正校成会一食平和基金）

理事 山崎真帆、理事 宮下大夢

東日本大震災の被災地域において展開した学習支援活動の経験・知見を活かし、現代日本における「教育と人間の安全保障」を主題とするプロジェクトを計画・実施した。

具体的には、群馬県館林市に暮らしているムスリムの子どもたち（主に小中学生）を対象とした学習支援活動（2017年7月立ち上げ）を、2020年度も継続的に展開した。これまでと同様に市内の六郷公民館において、午前10時から12時まで隔週（第2、第4）土曜日に勉強会を開催し、各回5～15名程度の子どもたちが参加した。

2019年度までは、各回1、2名のHSFスタッフが現地に赴き、館林市在住のボランティアの方々や東洋大学を中心とする大学生ボランティアの協力を得て、本プロジェクトを運営してきた。また、HSFでは“地域密着型”の支援体制構築に力を入れてきた。地元の一般ボランティアの方々のご尽力もあり、2019年度末には、市内の高校からもボランティア希望の連絡があるなど、市内におけるボランティアの輪も広がりつつあった。しかしながら、2020年初頭より国内外において急拡大した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受け、2020年3月以降、2021年4月現在に至るまで、従来の形態での活動は困難となった。以下で“コロナ禍”における本プロジェクトの活動内容について概説する。

第一に、2020年3月から6月中旬にかけて、SNSを通じた学習コンテンツの紹介、オンラインでの学習支援（SNS・電話）、平易な日本語、あるいは英語等によるCOVID-19に関する情報や、公的支援の情報などの共有を行った。3月上旬から6月中旬まで六郷公民館の貸館が中止となったことへの対応であった。

第二に、感染対策に十分留意しつつ、6月下旬から11月下旬にかけて、館林市在住のボランティアの方々を中心とした対面での学習支援を実施した。事前にモバイルルーターを手配し、ボランティアの方にパソコンをご持参いただくことで、HSFスタッフや首都圏の大学生ボランティアがオンラインで参加することもできた。しかしながら、12月中旬から2021年3月初旬まで、再び六郷公民館の貸館が停止された。

第三に、感染対策に十分留意しつつ、3月上旬から対面での学習支援を再開した。引き続き館林市在住のボランティアの方々を中心とした担い手としつつ、新たに近隣の高校に通う高校生ボラ

ンティアを複数名受け入れた。2021年度からは六郷公民館に利用者向けの Wi-Fi が整備されることもあり、HSF としては、今後、オンラインツールを活用するなどしてよりよいプロジェクトのあり方を模索していく。

他方、本プロジェクトの持続可能性を高めるため、HSF では、館林市在住のボランティアの方々を中心的な担い手とする新たな運営体制への円滑な移行を目指してきた。2020年12月から年度末にかけて継続的に話し合いの場をもち、意見交換を重ねてきた。また、2021年度からはロヒンギャのカディザ・ベコム氏を HSF 事務局に迎え、同氏と館林市在住のボランティアの方々を軸に、ロヒンギャの女性を対象とする支援を行っていくこととなった。

2. 各種連携、教育プロジェクト

副理事長 佐藤安信

2020年度は主に以下の活動をした。

- ・ HSP/HSF セミナーの企画運営
- ・ 人間の安全保障学会の学生連盟と学会時にイベント開催
- ・ 出前講義、授業、カフェ（難民シリーズ）、スタディツアーなどの企画、**東京大学持続的平和研究センター**における、科学研究費補助金による各種研究会の共催、とりわけ、
 - 2020年11月22日に「日本の難民問題の現在地 ミャンマー難民の声も踏まえて」とのウェビナー開催
 - 2021年2月22日に第278回HSPセミナー「SDG時代の市民社会を通じたカンボジアへの協力 ～コロナと米中新冷戦下の日本の役割：農村の「草の根民主主義」支援の可能性～」(ウェビナー) とコラボ
 - 2020年3月24日に、ビジネスと人権ローヤーズネットワークと共催で「企業における「人間の安全保障」インデックス (CHSI) 策定に向けて：CHSI プロジェクト中間報告会」(ウェビナー) とコラボ
- ・ CDR, ANRIP との連携による難民の国際的保護活動
- ・ CDR、難民政策フォーラムの活動

3. ANRIP 会議の開催とまなび旅

副理事長 佐藤安信、理事 滝澤三郎

2020 年度のミャンマー研修は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受け中止としました。

4. 「日本の人間の安全保障指標」プロジェクト

理事長 高須幸雄

SDGs の理念は、2030 年までに「誰も取り残されない社会」の達成を目指すことであるが、日本では、依然としてすべての人々の厚生がみだされ、その尊厳が尊重されているわけではない。一人一人の「命・生活・尊厳」の確保を目指す人間の安全保障の視点から、日本国内に存在する貧困、格差、社会的排除の実態を、指標として地域別に可視化することによって、今後、どこに重点を置いて取り組みを強化すべきかを浮き彫りにするプロジェクトを HSF の有志メンバーを中心に継続した。最初の成果物を『SDGs と日本—誰も取り残されないための人間の安全保障指標』として、2019 年 11 月に出版した(明石書店発行)。2020 年 12 月にはその英訳版を国際協力機構 (JICA) の協力で出版した。この研究成果は、国内外で尊厳を指標化する初めての試みとして、注目されており、UNDP の人間開発報告書などでも紹介された。また、11 月の中部大学における「人間の安全保障学会」年次総会をはじめ多数の大学、JICA 研究所などでこの指標の発表・意見交換を行ない、様々なメディアで紹介、報道された。

指標プロジェクトの第 2 フェーズとして、プロジェクトチームが研究者、大学、団体、自治体の協力を得て、SDGs の理念を実現するための市町村レベルでの差異、課題を可視化するプロジェクトを進め、その第 1 陣として、HSF の今までの活動で関係の深い宮城県内の 35 市町村レベルでの課題を指標化し、本年 3 月末仙台国際センターで発表会 (オンライン形式併用) を開催した。

以上